

(事後評価)

次代を担う若手大学人育成イニシアティブ

(実施期間：平成 19～23 年度)

実施機関：筑波大学（総括責任者：山田 信博）

プロジェクトの概要

「拠点形成活動を強力に展開し、大学全体の教育研究水準を向上させる新たな枠組み」として、「戦略イニシアティブ推進機構」を平成 19 年度に創設する。本プロジェクトは当推進機構を活用することで、効果的に人材育成を加速するものであり、国内外から生命・自然科学分野の 15 名の優れた若手研究者を国際公募により特任准教授・助教として任用し、5 年後のテニユア審査を経て、教授・准教授に昇任させる。また、学長が統括する若手研究者育成推進委員会及びメンターが若手研究者を支援し、優れた中間評価を受けた若手研究者に研究資金等のインセンティブを付与する。さらに、全ての部局・組織で、新規採用の助教に対して、5 年の TT 制または任期制を導入・定着させる。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
A	s	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プロジェクトで実施した「重点支援型」のテニユアトラック制（以下「TT 制」という。）と全学を対象とした従前からの「つくば型」に加えて「新つくば型」を創設し、さまざまな研究分野に対応した TT 制を整備し、人事システムの大きな改革に結び付けていることは評価できる。今後は、3つの制度の学内理解度を上げ TT 若手への採用を希望する若手研究者にとっても判りやすい TT 制の普及・定着を期待する。

- ・**目標達成度**：本プロジェクト実施開始前から全学レベルで TT 制が導入され、テニユアトラック若手研究者（以下「TT 若手」という。）の自立を意識した取組は高く評価できる。今後は、若手研究者の研究環境を維持し、部局ごとに整備された若手研究者に対するメンター制度及び研究費・人的支援制度を、全学的な制度設計として完成させることを期待する。
- ・**国際公募・選考・業績評価**：学外者を含む審査委員会によって公平かつ透明な選考・採

用、中間評価、テニユア審査が行われ、優秀な若手研究者を採用したことは評価できる。今後は、テニユア職採用にあたって昇任を必須条件としたことにより、准教授として採用した TT 若手がテニユア職に採用できなかったことを踏まえ、必ずしも昇任を条件としない TT 制を活用することを期待する。

- **制度設計に基づく実施内容・実績**：TT 若手が「運営調整委員会」を組織して本プロジェクトの運営に資するとともに、シンポジウム、セミナーを企画・開催し、これらの TT 若手の活動状況をテニユア審査基準に組み込んだことは評価できる。
- **制度設計に対するマネジメント**：ライフイベントへの対応やセーフティネットが全学レベルで規定されており、また、本プロジェクトで実施した TT 制の課題を分析し、新たな TT 制の創設につなげたことは評価できる。
- **実施期間終了後における取組**：本プロジェクト開始以前からの「つくば型」、本プロジェクトに基づく「重点支援型」に加えて「新つくば型」を創設し、さまざまな若手研究者育成の仕組みを創り上げたことは評価できる、今後は、本プロジェクトの実施で得られた成果をそれぞれの TT 制に的確に活かしていくことを期待する。
- **中間評価の反映**：中間評価結果を反映し、新たに「新つくば型」を導入し、テニユア採用にあたって昇任を必須条件としない TT 若手の採用を可能にするなど、中間評価には的確に対応している。